

2022 年 10 月のおでかけ指数

～好条件重なり、全国的に回復進む

2022 年 11 月 14 日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データ¹の一部を集約した「おでかけ指数²」により、2022 年 10 月における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の 2 種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



1. 全国の 10 月のおでかけ指数：回復進む

2022 年 10 月における全国のおでかけ指数は 62.5 となった（図 1）。前年比で +35.3% と 11 カ月連続で前年を上回った。2019 年同月比では ▲23.7% とマイナス幅はコロナ禍後（2020 年 3 月以降）で最小となった（図 2）。新型コロナの感染状況が小康状態で推移し、前月には抑制要因となっていた天候も良く、また全国旅行支援による後押しも受けるなど好条件が重なり、人流の回復が進んだ。

図 1 おでかけ指数の月次推移（全国）

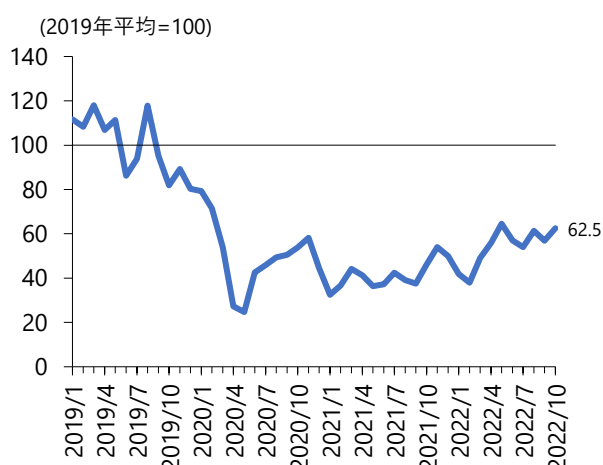
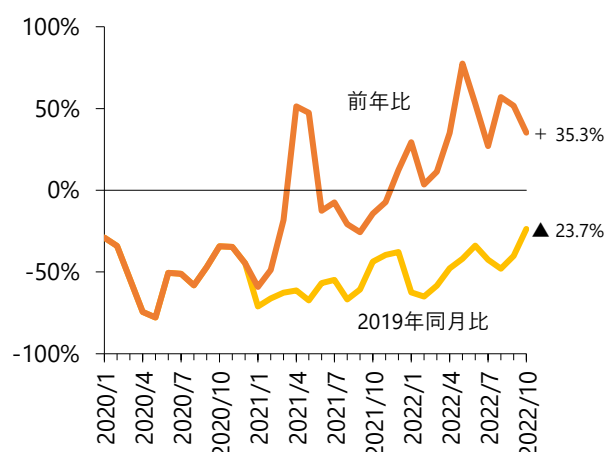


図 2 おでかけ指数前年比・2019 年同月比（全国）



注）2022 年 11 月 6 日までのデータによる推計値 資料）九経調 DATASALAD

¹ 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間 2,500 万 MAU）のスマートフォンから取得したものである。

² おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年の日平均を 100 とした指数である。

2. 地域ブロック別のおでかけ指数：東日本が先行しながら、全国で回復進む

2022年10月のおでかけ指数を12の地域ブロック別にみると、前月までと同様、全地域で前年比がプラスとなった（表1、表2）。また2019年同月比は全地域で改善した。甲信越（同+0.1%）はコロナ禍後初めてプラスに転じたほか、東北（▲7.1%）や北関東（▲9.0%）では一桁台のマイナスにとどまるなど、北海道以外の11地域でコロナ禍後最も高い数値（2019年同月比）となった。ただし回復は東日本を中心に先方しており、西日本はやや出遅れている傾向もある。

表1 地域ブロック別おでかけ指数

地域	2022年 10月	前年比	2019年 同月比
全国	62.5	+ 35.3%	▲ 23.7%
北海道	76.1	+ 28.3%	▲ 19.5%
東北	81.5	+ 33.6%	▲ 7.1%
北関東	71.8	+ 26.9%	▲ 9.0%
南関東	51.9	+ 45.0%	▲ 32.5%
甲信越	79.8	+ 25.5%	+ 0.1%
東海	61.0	+ 30.9%	▲ 21.3%
北陸	75.0	+ 34.6%	▲ 17.4%
近畿	60.7	+ 35.8%	▲ 24.5%
中国	71.2	+ 29.0%	▲ 22.9%
四国	74.9	+ 33.0%	▲ 19.6%
九州	70.9	+ 29.9%	▲ 23.3%
沖縄	64.3	+ 71.0%	▲ 32.4%

注）2022年11月6日までのデータによる推計値 資料）九経調 DATASALAD

表2 地域ブロック別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2022年 10月	前年比	2019年 同月比
1	東北	81.5	+ 33.6%	▲ 7.1%
2	甲信越	79.8	+ 25.5%	+ 0.1%
3	北海道	76.1	+ 28.3%	▲ 19.5%
4	北陸	75.0	+ 34.6%	▲ 17.4%
5	四国	74.9	+ 33.0%	▲ 19.6%
6	北関東	71.8	+ 26.9%	▲ 9.0%
7	中国	71.2	+ 29.0%	▲ 22.9%
8	九州	70.9	+ 29.9%	▲ 23.3%
9	沖縄	64.3	+ 71.0%	▲ 32.4%
10	東海	61.0	+ 30.9%	▲ 21.3%
11	近畿	60.7	+ 35.8%	▲ 24.5%
12	南関東	51.9	+ 45.0%	▲ 32.5%

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2022年 10月	前年比	2019年 同月比
1	甲信越	79.8	+ 25.5%	+ 0.1%
2	東北	81.5	+ 33.6%	▲ 7.1%
3	北関東	71.8	+ 26.9%	▲ 9.0%
4	北陸	75.0	+ 34.6%	▲ 17.4%
5	北海道	76.1	+ 28.3%	▲ 19.5%
6	四国	74.9	+ 33.0%	▲ 19.6%
7	東海	61.0	+ 30.9%	▲ 21.3%
8	中国	71.2	+ 29.0%	▲ 22.9%
9	九州	70.9	+ 29.9%	▲ 23.3%
10	近畿	60.7	+ 35.8%	▲ 24.5%
11	沖縄	64.3	+ 71.0%	▲ 32.4%
12	南関東	51.9	+ 45.0%	▲ 32.5%

注）2022年11月6日までのデータによる推計値 資料）九経調 DATASALAD

九州・沖縄でも、人流回復が進んでいる。九州においては、2022年10月のおでかけ指数は70.9となり、2022年5月の76.0、2020年11月の71.9に次いでコロナ禍後で3番目に高い水準となった（図3）。2019年同月比は▲23.3%であり、コロナ禍後で最もマイナス幅が小さくなっている（図4）。また沖縄においては、2022年10月のおでかけ指数は64.3となり、コロナ禍後で最も高い水準となった（図5）。2019年同月比は▲32.4%であり、コロナ禍後で最もマイナス幅が小さくなっている（図6）。

図3 おでかけ指数の月次推移（九州）

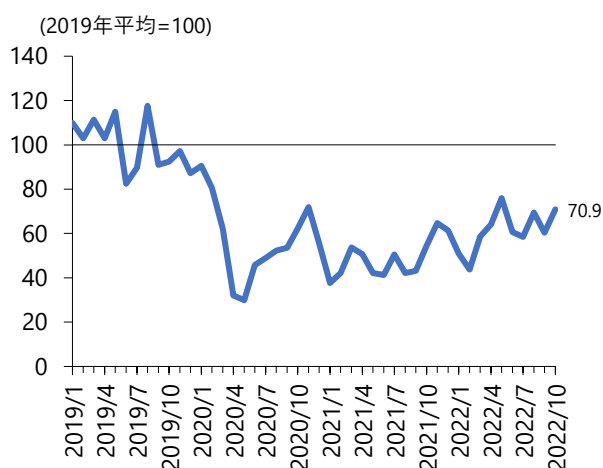
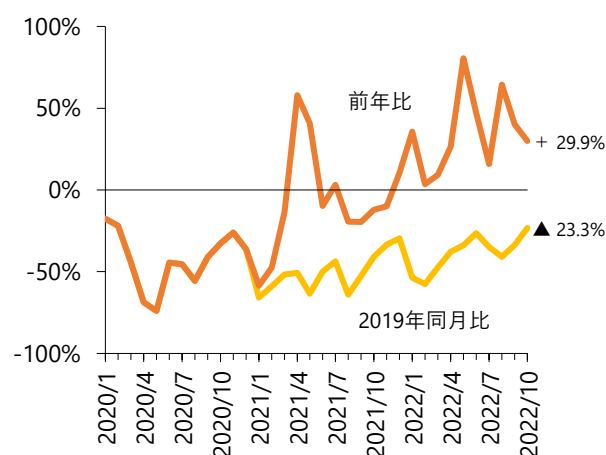


図4 おでかけ指数前年比・2019年同月比（九州）



注) 2022年11月6日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

図5 おでかけ指数の月次推移（沖縄）

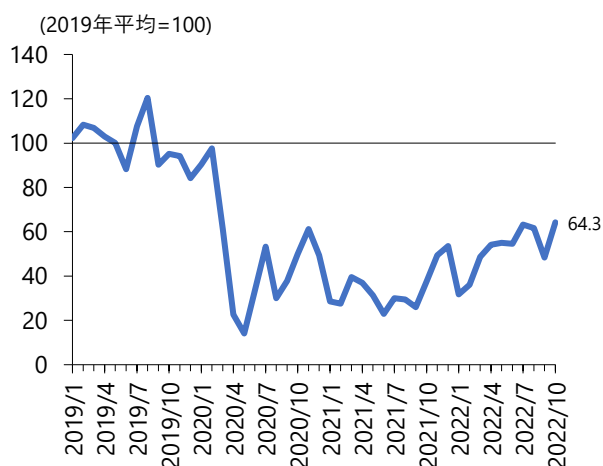
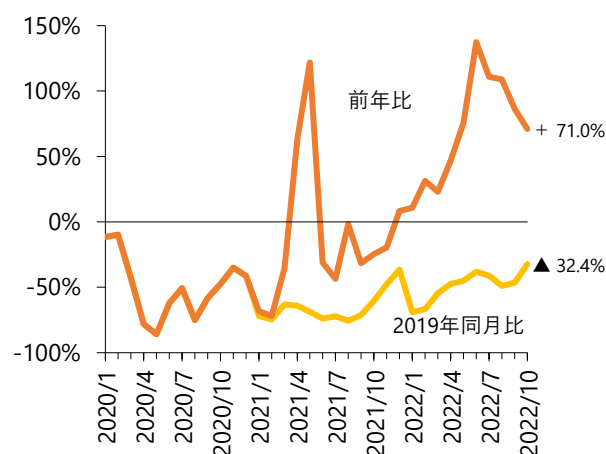


図6 おでかけ指数前年比・2019年同月比（沖縄）



注) 2022年11月6日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

3. 都道府県別のおでかけ指数： 全都道府県で改善

2022 年 10 月のおでかけ指数を 47 都道府県別にみると、前年比は全都道府県でプラスとなった（表 3、表 4）。前月までと同様、指数の上位には青森県（89.9）、岩手県（89.5）、秋田県（89.4）など東北を中心に東日本の地方圏が並ぶ。

2019 年同月比は全都道府県で前月より改善し、36 都府県でコロナ禍後最も高い数値（2019 年同月比）となった。特に山梨県（+6.3%）、長野県（+5.2%）、福島県（+1.1%）の 3 県ではコロナ禍後初めてプラスに転じた。九州・沖縄では、福岡県（▲26.3%）、佐賀県（▲20.0%）、沖縄県（▲32.4%）でコロナ禍後最もマイナス幅が小さくなっている。

表 3 都道府県別おでかけ指数

地域	2022年10月	前年比	2019年同月比	地域	2022年10月	前年比	2019年同月比
全国	62.5	+ 35.3%	▲ 23.7%	三重県	62.9	+ 28.6%	▲ 22.1%
北海道	76.1	+ 28.3%	▲ 19.5%	滋賀県	67.4	+ 26.7%	▲ 18.7%
青森県	89.9	+ 41.6%	▲ 3.6%	京都府	66.8	+ 47.1%	▲ 18.2%
岩手県	89.5	+ 40.1%	▲ 1.1%	大阪府	54.9	+ 42.2%	▲ 31.1%
宮城県	69.0	+ 31.9%	▲ 15.9%	兵庫県	59.5	+ 26.1%	▲ 24.7%
秋田県	89.4	+ 29.9%	▲ 9.7%	奈良県	73.3	+ 26.4%	▲ 11.5%
山形県	82.9	+ 25.6%	▲ 9.8%	和歌山県	74.4	+ 21.6%	▲ 11.2%
福島県	82.0	+ 31.8%	+ 1.1%	鳥取県	74.5	+ 27.1%	▲ 19.3%
茨城県	68.8	+ 21.3%	▲ 12.0%	島根県	79.4	+ 29.3%	▲ 22.8%
栃木県	70.3	+ 24.6%	▲ 8.2%	岡山県	68.3	+ 32.1%	▲ 24.9%
群馬県	77.3	+ 36.6%	▲ 5.7%	広島県	69.4	+ 31.7%	▲ 23.0%
埼玉県	53.4	+ 28.7%	▲ 19.1%	山口県	73.0	+ 19.3%	▲ 20.7%
千葉県	53.3	+ 32.3%	▲ 27.5%	徳島県	71.5	+ 30.2%	▲ 19.0%
東京都	50.6	+ 49.7%	▲ 36.7%	香川県	70.8	+ 41.9%	▲ 22.6%
神奈川県	55.7	+ 44.3%	▲ 22.4%	愛媛県	75.4	+ 32.3%	▲ 21.4%
新潟県	77.6	+ 25.2%	▲ 8.5%	高知県	82.0	+ 27.9%	▲ 14.0%
富山県	75.8	+ 29.4%	▲ 17.2%	福岡県	66.6	+ 33.7%	▲ 26.3%
石川県	70.8	+ 35.6%	▲ 24.5%	佐賀県	68.2	+ 27.7%	▲ 20.0%
福井県	81.7	+ 37.8%	▲ 3.9%	長崎県	71.5	+ 29.5%	▲ 21.7%
山梨県	72.5	+ 24.8%	+ 6.3%	熊本県	80.0	+ 26.6%	▲ 17.5%
長野県	85.7	+ 25.8%	+ 5.2%	大分県	78.2	+ 27.4%	▲ 22.9%
岐阜県	78.6	+ 21.9%	▲ 10.0%	宮崎県	78.3	+ 22.9%	▲ 19.8%
静岡県	58.6	+ 31.1%	▲ 18.9%	鹿児島県	70.4	+ 28.2%	▲ 23.3%
愛知県	57.7	+ 34.5%	▲ 25.6%	沖縄県	64.3	+ 71.0%	▲ 32.4%

注) 2022 年 11 月 6 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表 4 都道府県別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2022年10月	前年比	2019年同月比
1	青森県	89.9	+ 41.6%	▲ 3.6%
2	岩手県	89.5	+ 40.1%	▲ 1.1%
3	秋田県	89.4	+ 29.9%	▲ 9.7%
4	長野県	85.7	+ 25.8%	+ 5.2%
5	山形県	82.9	+ 25.6%	▲ 9.8%
6	福島県	82.0	+ 31.8%	+ 1.1%
	高知県	82.0	+ 27.9%	▲ 14.0%
8	福井県	81.7	+ 37.8%	▲ 3.9%
9	熊本県	80.0	+ 26.6%	▲ 17.5%
10	島根県	79.4	+ 29.3%	▲ 22.8%
11	岐阜県	78.6	+ 21.9%	▲ 10.0%
12	宮崎県	78.3	+ 22.9%	▲ 19.8%
13	大分県	78.2	+ 27.4%	▲ 22.9%
14	新潟県	77.6	+ 25.2%	▲ 8.5%
15	群馬県	77.3	+ 36.6%	▲ 5.7%
16	北海道	76.1	+ 28.3%	▲ 19.5%
17	富山県	75.8	+ 29.4%	▲ 17.2%
18	愛媛県	75.4	+ 32.3%	▲ 21.4%
19	鳥取県	74.5	+ 27.1%	▲ 19.3%
20	和歌山県	74.4	+ 21.6%	▲ 11.2%
21	奈良県	73.3	+ 26.4%	▲ 11.5%
22	山口県	73.0	+ 19.3%	▲ 20.7%
23	山梨県	72.5	+ 24.8%	+ 6.3%
24	徳島県	71.5	+ 30.2%	▲ 19.0%
	長崎県	71.5	+ 29.5%	▲ 21.7%
26	石川県	70.8	+ 35.6%	▲ 24.5%
	香川県	70.8	+ 41.9%	▲ 22.6%
28	鹿児島県	70.4	+ 28.2%	▲ 23.3%
29	栃木県	70.3	+ 24.6%	▲ 8.2%
30	広島県	69.4	+ 31.7%	▲ 23.0%
31	宮城県	69.0	+ 31.9%	▲ 15.9%
32	茨城県	68.8	+ 21.3%	▲ 12.0%
33	岡山県	68.3	+ 32.1%	▲ 24.9%
34	佐賀県	68.2	+ 27.7%	▲ 20.0%
35	滋賀県	67.4	+ 26.7%	▲ 18.7%
36	京都府	66.8	+ 47.1%	▲ 18.2%
37	福岡県	66.6	+ 33.7%	▲ 26.3%
38	沖縄県	64.3	+ 71.0%	▲ 32.4%
39	三重県	62.9	+ 28.6%	▲ 22.1%
40	兵庫県	59.5	+ 26.1%	▲ 24.7%
41	静岡県	58.6	+ 31.1%	▲ 18.9%
42	愛知県	57.7	+ 34.5%	▲ 25.6%
43	神奈川県	55.7	+ 44.3%	▲ 22.4%
44	大阪府	54.9	+ 42.2%	▲ 31.1%
45	埼玉県	53.4	+ 28.7%	▲ 19.1%
46	千葉県	53.3	+ 32.3%	▲ 27.5%
47	東京都	50.6	+ 49.7%	▲ 36.7%

< 2019年同月比順 >

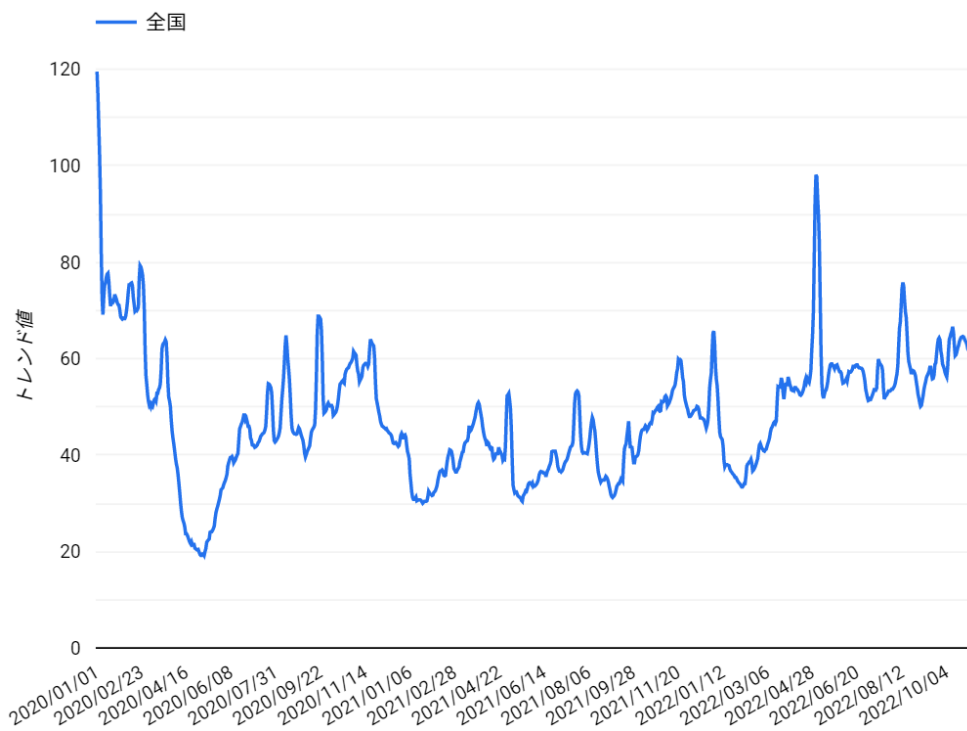
順位	地域	2022年10月	前年比	2019年同月比
1	山梨県	72.5	+ 24.8%	+ 6.3%
2	長野県	85.7	+ 25.8%	+ 5.2%
3	福島県	82.0	+ 31.8%	+ 1.1%
4	岩手県	89.5	+ 40.1%	▲ 1.1%
5	青森県	89.9	+ 41.6%	▲ 3.6%
6	福井県	81.7	+ 37.8%	▲ 3.9%
7	群馬県	77.3	+ 36.6%	▲ 5.7%
8	栃木県	70.3	+ 24.6%	▲ 8.2%
9	新潟県	77.6	+ 25.2%	▲ 8.5%
10	秋田県	89.4	+ 29.9%	▲ 9.7%
11	山形県	82.9	+ 25.6%	▲ 9.8%
12	岐阜県	78.6	+ 21.9%	▲ 10.0%
13	和歌山県	74.4	+ 21.6%	▲ 11.2%
14	奈良県	73.3	+ 26.4%	▲ 11.5%
15	茨城県	68.8	+ 21.3%	▲ 12.0%
16	高知県	82.0	+ 27.9%	▲ 14.0%
17	宮城県	69.0	+ 31.9%	▲ 15.9%
18	富山県	75.8	+ 29.4%	▲ 17.2%
19	熊本県	80.0	+ 26.6%	▲ 17.5%
20	京都府	66.8	+ 47.1%	▲ 18.2%
21	滋賀県	67.4	+ 26.7%	▲ 18.7%
22	静岡県	58.6	+ 31.1%	▲ 18.9%
23	徳島県	71.5	+ 30.2%	▲ 19.0%
24	埼玉県	53.4	+ 28.7%	▲ 19.1%
25	鳥取県	74.5	+ 27.1%	▲ 19.3%
26	北海道	76.1	+ 28.3%	▲ 19.5%
27	宮崎県	78.3	+ 22.9%	▲ 19.8%
28	佐賀県	68.2	+ 27.7%	▲ 20.0%
29	山口県	73.0	+ 19.3%	▲ 20.7%
30	愛媛県	75.4	+ 32.3%	▲ 21.4%
31	長崎県	71.5	+ 29.5%	▲ 21.7%
32	三重県	62.9	+ 28.6%	▲ 22.1%
33	神奈川県	55.7	+ 44.3%	▲ 22.4%
34	香川県	70.8	+ 41.9%	▲ 22.6%
35	島根県	79.4	+ 29.3%	▲ 22.8%
36	大分県	78.2	+ 27.4%	▲ 22.9%
37	広島県	69.4	+ 31.7%	▲ 23.0%
38	鹿児島県	70.4	+ 28.2%	▲ 23.3%
39	石川県	70.8	+ 35.6%	▲ 24.5%
40	兵庫県	59.5	+ 26.1%	▲ 24.7%
41	岡山県	68.3	+ 32.1%	▲ 24.9%
42	愛知県	57.7	+ 34.5%	▲ 25.6%
43	福岡県	66.6	+ 33.7%	▲ 26.3%
44	千葉県	53.3	+ 32.3%	▲ 27.5%
45	大阪府	54.9	+ 42.2%	▲ 31.1%
46	沖縄県	64.3	+ 71.0%	▲ 32.4%
47	東京都	50.6	+ 49.7%	▲ 36.7%

注) 2022年11月6日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

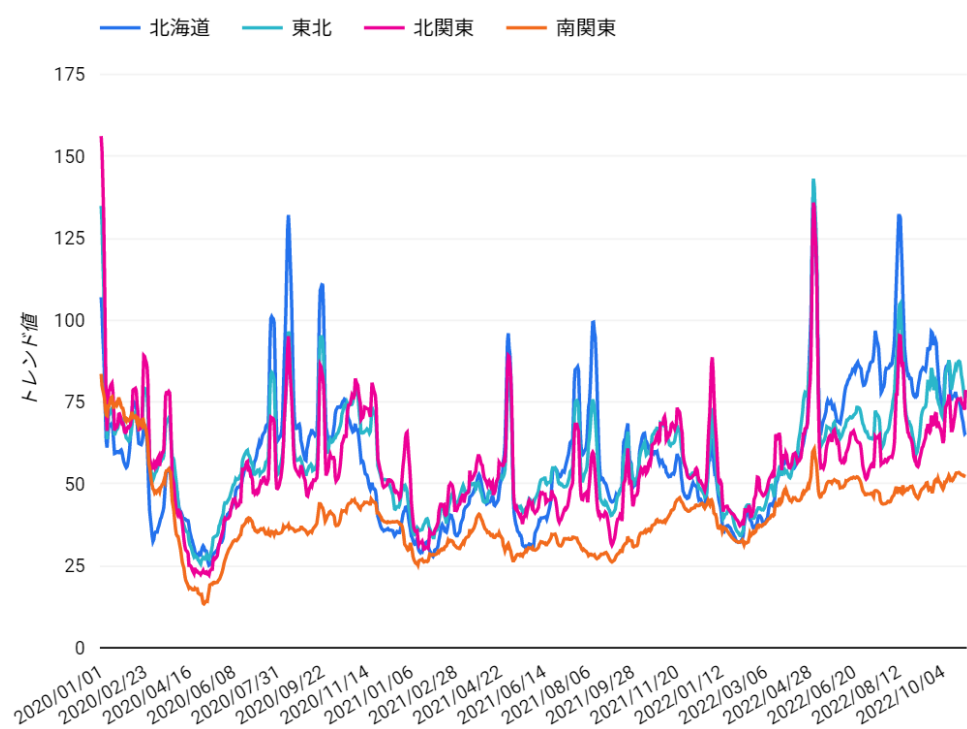
5. 日次推移

図7 地域ブロック別の日次推移（トレンド値）

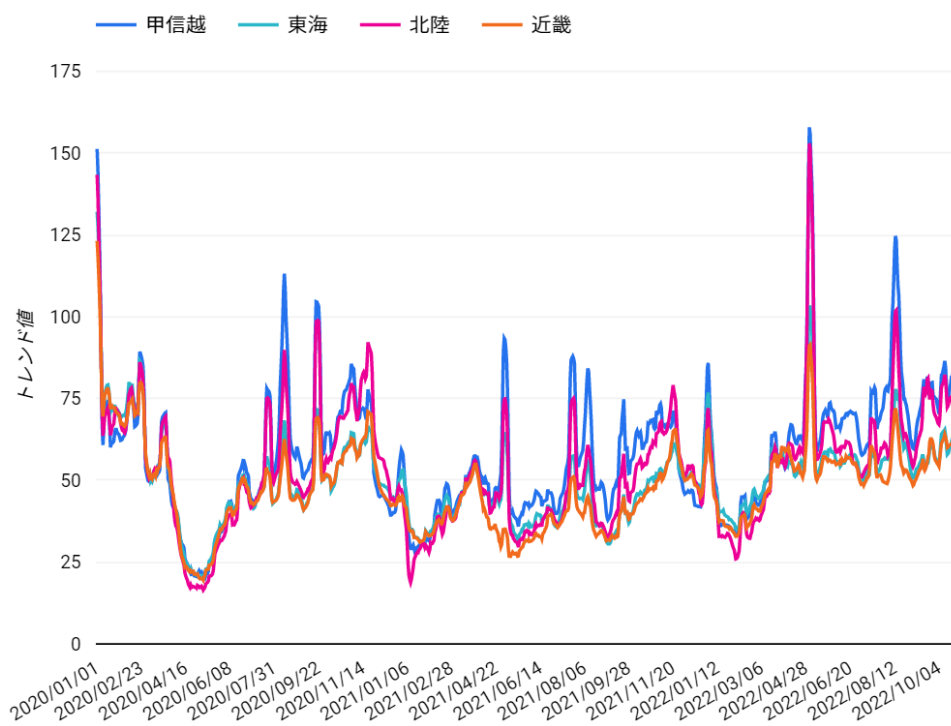
<全国>



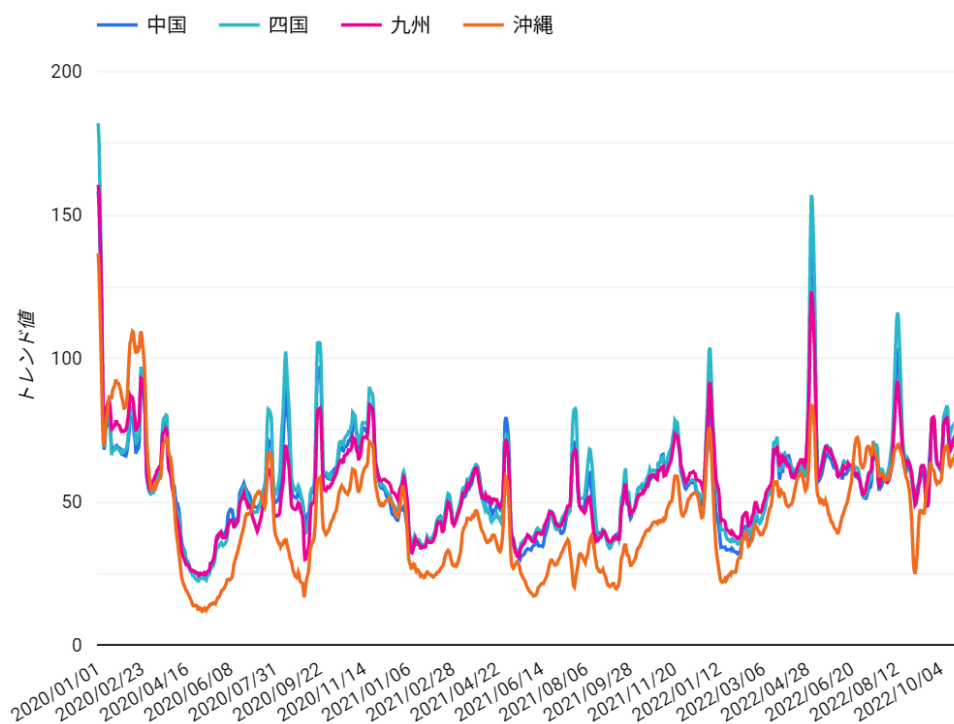
<北海道～南関東>



< 甲信越～近畿 >



< 中国～沖縄 >



注) 2022 年 11 月 6 日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

小柳 真二 (事業開発部 主任研究員)

E-mail: skoyanagi@kerc.or.jp

参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した。

③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 = (各日人数 ÷ 2019 年の 1 日当たり平均人数) × 100 日次（原数値）

トレンド値 = トレンド成分 = 原数値 - 曜日成分 - イベント成分

曜日調整値 = 原数値 - 曜日成分

⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。